Lesson

7

愛すること・赦すこと

「愛」と「赦し」は、キリスト教のキーワードです。どちらも一般的に使われる言葉ですが、特に「愛」は世間で使われている意味とはかなり異なります。　また、イエス様が**「互いに愛し合いなさい」**(ヨハネ 13：34)と言われたように、愛することと赦すことは私たちに対する勧めでもあります。さらにイエス様は**「自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい」**(マタイ 5：44)とまで言われました。神様が求めておられる「愛」のハードルは高すぎる！と思ったことはありませんか。

この課で学ぶこと

1．愛され、赦されている私たち

2．赦せない思い

3．赦さないままでいる影響

4．赦す心、愛する心は神様から

（1）自分の力ではなく

（2）神様に心を注ぎ出す

（3）赦し続ける

●考えてみましょう

赦せないと思ったことはありますか？

1．愛され、赦されている私たち

神様の愛は一時的な感情でも好みでもなく、神様に背を向け、罪の中にいた私たちをあわれみ、ご自身の子どもとしてくださるほどの惜しみない愛です。神様は私たち一人一人を愛し、イエス様の十字架の贖(あがな)いによって、私たちの罪を赦してくださいました。

最初に確認しておきたいことは、まず私たち自身が、神様のあわれみによって愛され、罪赦された罪人であるということです。私たちが愛され、赦されたのは、私たちが愛にあふれているからでも、人を赦す寛容さを持っているからでもありません。イエス様は十字架の上で、ご自分を憎み、あざけり、十字架につけた人たちのために、「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです」(ルカ 23：34)と祈られました。私たちも、自分が何をしているのかがわからない罪人でした。イエス様のいのちがけの愛によって、私たちは罪赦されたのです。

私たちは神様の愛を知りませんでした。イエス様によって罪赦され、イエス様を通して神様の愛を知りました(Ⅰヨハネ 4：9－10)。クリスチャンは神様に愛され、赦され、神の子どもとされる特権を与えられました。そしてクリスチャンとして生きるとは、神様を愛し、人を愛することができる私へと変えられていくということです。

イエス様が教えてくださった「主の祈り」に「私たちの負い目をお赦しください。私たちも、私たちに負い目のある人たちを赦します」(マタイ 6：12)という一節があります。クリスチャンは救われた後も罪を犯します。神様は私たちが自分の罪を言い表すなら、イエス様の

十字架のゆえに、私たちの罪を赦してくださいます(Ⅰヨハネ 1：9)。同時に、私たちの罪が赦されることは、私たちが人の罪を赦すこととつながっているのです。

2．赦せない思い

けれども、私たちの中にあるのは、そうはなっていない現実です。聖書が「愛し合いなさい」と語っているのだから、愛さなければ、赦さなければ、それはわかっているつもりでいます。でも、わかっていることは、それを実践することの代わりにはなりません。現に私たちの中にあるのは、愛せない、赦せない思いなのです。

ことばや態度でいやがらせをされたり、ありもしない噂を流されたり、信頼して打ち明けたことをまわりに言いふらされたり…そんな時は腹が立ちますし、怒りや憎しみによって相手を赦せない思いになることもあります。ましてや、犯罪の被害者になったり、戦争で自分の家族が殺されたりしたら、どうして赦すことなどできるでしょうか。

3．赦さないままでいる影響

では、赦さないままでいるとどうなるでしょうか。私たちが誰かを赦さないままでいる時、その相手との関係が表面的になったり、ぎくしゃくしたりすることは、誰もが経験していることだと思います。

けれども、赦さないままでいることは、その人との関係だけに影響するのではありません。私たちが誰かを赦さないでいることは、神様との関係に影響します。祈ってもどこか心に平安がなく、喜びをもって神様を礼拝することも難しくなります。私たちが誰かを赦さないことは、私たちの信仰に大きな影響を及ぼすのです。

また、誰かを赦さないでいることは、自分自身のあり方にも影響し

ます。いらいらしたり、他の人に対してもきつくなってしまったり、落ち着いて仕事ができなくなったりします。誰かを赦さないでいる限り、いつまでもその赦せない思いにとらわれてしまい、神様からいただく本当の自由を体験することができないのです。

4．赦す心、愛する心は神様から

（1）自分の力ではなく

神様のみことばに従って、愛せるように、赦せるように努力してみようと思った人もいるでしょう。けれども、それは自分には無理だと気づくことも多いと思います。

赦すことは簡単なことではありません。特に、相手にひどいことをされた、しかも相手はそのことを悪かったとも思っていないような時はなおさらです。

赦すことは、自分の中にある赦せない思いを無視したり、なかったことにすることではありません。その思いにふたをしておくだけでは、やがてそれがまた出てきてしまいます。また、自分の努力だけで人を愛し赦そうとしても、それは表面的なものに終わってしまいます。

また赦すことは、相手のしたことを悪くなかったことにしたり、現実を見ないようにしたり、正義を曲げたりすることではありません。赦すとは、憎しみや怒りの感情から解放されて、自分の中でのわだかまりがなくなることです。

最終的に公正な判断をされる神様にゆだねましょう。「愛する者たち、自分で復讐してはいけません。神の怒りにゆだねなさい。」（ローマ 12：19）

創世記に登場するヨセフは、父ヤコブに溺愛されたために、兄たちの憎しみを買いました。ヨセフはねたみを燃やす兄たちによって穴に

落とされ、ついにはエジプトに奴隷として売られてしまいます(創世記 37 章)。ヨセフはエジプトでいくつもの苦しみと試練を味わいましたが、神様はヨセフとともにおられ、ついにはエジプトの宰相となりました(創世記 39－41 章)。

やがて一帯に起こった飢饉によって、ヨセフはエジプトに助けを求めに来た兄たちと再会します(創世記 42 章)。ヨセフはすぐに兄たちだと分かりましたが、兄たちは気づいていません。ヨセフにとって、兄たちを赦すことは簡単なことではありませんでした。ヨセフは兄たちをスパイとみなして試し、まるで他人であるかのような演技を続けます。そこには兄たちへのわだかまり、複雑な思いも当然あったでしょう。冷徹な宰相を装うヨセフですが、こらえられなくなり、兄たちのいないところで、何度も大声で泣きます。

やがて兄たちの中に、過去の罪を悔いる心、兄弟愛のしるしを見たとき、ヨセフは自分が彼らの弟であることを打ち明け、兄たちと涙の和解をしました。ヨセフはついに自分を捨てた兄たちを赦し、彼らを祝福することができたのです。そのためには 20 年以上の長い月日が必要でした(創世記 45 章)。ヨセフは最後に兄たちにこう告げます。「あなたがたは私に悪を謀りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとしてくださいました。それは今日のように、多くの人が生かされるためだったのです」(創世記 50：20)。ヨセフも長い間兄たちを赦せない自分に苦しんだことでしょう。長い時間をかけて、神様はヨセフに赦す思いを与えてくださったのです。

私たちは自分の力では人を愛することも赦すこともできません。自分は愛すること、赦すことにおいて無力であると認めることから、私たちが人を愛し、赦す歩みは始まるのです。

（2）神様に心を注ぎ出す

憎しみや赦せない思いを捨てて、赦す心、愛する心を持つことができるようになるためには、神様の助けが必要です。そして多くの場合、赦すためには時間が必要です。そのためには、その赦せない思いも、祈りによってそのまま神様のみもとに置くことです。

詩篇は神様への賛美と祈りの歌ですが、決して喜びばかりが歌われているわけではありません。それどころか、詩篇の多くの歌が嘆きや悲しみを歌っています。

あわれんでください　主よ　あわれんでください。
私たちは蔑みでいっぱいです。
私たちのたましいは
安逸を貪る者たちの嘲りと
高ぶる者たちの蔑みでいっぱいです。(詩篇 123：3-4)

主よ　あなたの御名のゆえに私を生かし
あなたの義によって
私のたましいを苦しみから助け出してください。
あなたの恵みによって　私の敵を滅ぼし
私のたましいに敵対するすべての者を
消し去ってください。
私はあなたのしもべですから。(詩篇 143：11-12)

馬鹿にされた、侮辱を受けた、赦せない…そんな思いを人に言うことはためらわれることかもしれません。けれども、神様はどんな私たちの声にも耳を傾けてくださるお方です。神様に信頼しているなら、詩篇の詩人のように、率直に嘆きも怒りも打ち明けてよいのです。そ

のようにして、私たちと神様との関係は深められていくのです。「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」(ピリピ 4：6-7)

（3）赦し続ける

信仰歴の長い人であっても、多くのクリスチャンが人を愛せない、赦せないという経験をしています。おそらく地上の生涯の最後まで、人を愛すること、赦すことのチャレンジは続くでしょう。自分は愛すること、赦すことにおいて無力であると認め、神様の力により頼みましょう。だからこそ、イエス様の十字架が必要だったのです。愛せない私、赦せない私を愛し赦すために、イエス様は十字架に架かってくださいました。もしあなたが今、この問題に直面しているなら、神様に信頼して祈りましょう。神様は必ずあなたの祈りを聞いて、助けてくださいます。

コラム

赦しという
仕上げていない仕事

「『先へ進む』時になっても、生に執着するのはなぜでしょうか。仕上げていない仕事のせいでしょうか。『あなたを赦します。そして私も赦してください』と言えなかったばかりに生に執着することが時々あります。私たちを傷つけた人々を赦し、また私たちが傷つけた人々から赦してもらう時、新しい自由が生まれます。それは先へ進む自由です。」

（『今日のパン、明日の糧』ヘンリ・ナウエン、日本キリスト教団出版局より）

まとめ

人を赦せないとき、愛せないときは、まず自分が神様に愛され、赦された罪人であることを思い起こしましょう。そして、自分には人を愛し、赦す力はないことを認め、神様の助けを求めて祈りましょう。神様は私たちの心から憎しみや怒りを取り除き、愛する心を与えてくださいます。

Q 話し合ってみましょう

1．どんなときに、愛すること・赦すことの難しさを感じますか？

2．愛せない人、赦せない人がいるなら、その人との関係について、神様の助けを求めて祈ってみましょう。